



## 暗闇からの脱却

Out of the shadows

P&Hの報告によると、ベトナムは過去十年に人災のために費やした労力を特に港湾分野においてベトナムの成長のために投じ、ベトナムの過去の破滅的な暗闇からの脱却を図っているという。

西アジア地域で2番目の人口を擁するこの国は、昨年、90億ドル以上の外国直接投資を取り付けた。共産主義政権であるグエン・タン・ズン首相は200以上の国々との交易を確立し、経済成長率7.8%、国内総生産の60%を輸出するに至っている。

現在、ベトナムでは2010年までに港湾を含む社会基盤を強化する動きにあり、これを受けて2015年までに経済がさらに好転する見通しである。韓国の民間のLG経済研究所によると、この外国直接投資を背景にベトナム経済は2020年にはタイやインドネシアを上回る可能性が高いとの予測をしている。

ベトナムは、今年の輸出目標額を480億ドルに設定しており、これは昨年の396億ドルを大幅に超える値であり、またこれは2005年の輸出成長率18%を超える額でもある。また、若年層などの新たな顧客に後押しされる形で国内市場も成長を続けており、昨年の国内市場における成長率は約20%であった。

社会基盤が不十分でかつ物価上昇率も8.4%ではあるが、WTO加盟による経済効果を考慮すれば、ベトナムの経済環境の将来は明るいといえよう。

ベトナム・ビジネス・フォーラム・インフラストラクチャー・グループのタン・ホア・ジョー氏は、IA PHアジア・オセアニア地域会議で、「道路の混雑、船舶の喫水制限、コンテナ貨物とバルク貨物との混在などによる輸送効率が低下しており、ベトナム政府は国としてこれらの課題に対処すべき状態に直面している」と話した。

現在、ホーチミンシティにはコンテナ貨物を年間の合計で230万TEU取り扱う5つの港湾がある。ベトナム政府は、これらの港湾をハイフォン(2008年完工)及びカイメップチャーバイ(2010年完工)の2カ所に移転する計画をしており、これらの港湾の完成により2014年には年間1,100万TEUのコンテナ貨物が取り扱われることになる。カイメップチャーバイ港は最大水深14m、6,000TEU級

の船舶に対応している。また、ハイフォン港においては、ハイフォン投資P&O港社(現在はDPワールド社)と地元企業のジョー・トアン社が、24,900万ドルを投資(DPワールド社が80%出資)して、岸壁延長950mを有する40ヘクタールの港湾用地を整備している。

ハチソン・ポート・ホールディング社(HPH)、APMターミナル社、PSAターミナル社を含む国内外9社の投資会社が、カイメップチーバイ港の様々な港湾施設に投資をしている。2010年の供用開始に向けて、第1フェーズとなる最大水深16m岸壁延長3000mを有する300ヘクタールの港湾整備事業が本年1月に着工した。

9社のターミナル運営会社は、現在整備中の10岸壁に加え、2015年までに新たに26岸壁の整備を提案するであろうとジョー氏は説明する。カイメップはホーチミンシティから90kmの距離にあり、対面2車線の道路により結ばれることになる。所要時間は約2時間になるであろうとジョー氏は付け加えた。カイメップ港とホーチミンシティを結ぶことになる道路及び橋梁工事は、メコンデルタの多くの運河を越えることとなり工事費用は約16億ドルにも達する。

「これらの港湾は雑多な貨物が混在しないコンテナ貨物最優先のコンテナ港湾である」また「河岸に点在する小規模施設での荷役は減少傾向にあり、今後は古い港湾は排他されるだろう」と彼は話した。

貿易が伸びるに従い、2010年までに港湾が混雑に直面する可能性が現実化しているため、政府は鋭意港湾整備計画を推進しているところであると彼は付け加えた。「新しい大水深港湾は早急に必要とされており、また同時に陸地側の大規模な社会基盤投資が求められている」

ベトナムは積み替えハブ港を目指して、またいくつかの港湾はこれに照準を絞り親密な対外関係を推進している。三角州の湾口部にあるヴァン・ホアン湾はこの最たるもので、湾部の水深は22mあり南東アジアの中でも有数の水深を持ち、また季節風、台風及び嵐に対しても地形的な優位性を持っている。

住友商事の副社長ヒロセ・シュージ氏は「ヴァン・ホアン湾は、既存の国際海上輸送路に近接しており積み替え地として「理想的」な場所であり、もし低廉な港湾使用料が実現すれば他の地域の港湾との競争にも有利であり、世界的にも通用する港湾となるであろう」と論じた。

もし仮にヴァン・ホアン湾の開発に必要な35億ドルの資金調達を、国家財源ではなく民間投資を活用できれば、恐らく早期に積み替え地としての貿易をより早い時期に開始できるであろう。

ところで、ベトナムがWTO加盟国に加盟していることを、関係者はどのように見ているのであろうか? 「基本的に賢明な策である」とホーチミンシティを基地港とし11船籍を有するピナライン子会社のファルコン海運の職員は言った。

さらに「WTOに加盟することによりベトナム軽工業やその製品、特にベトナム衣料産業はより広範な市場参入への足がかりを持つことになった」また「広域的な貿易の拡大により貨物のコンテナ化は確実に増加するであろう」と彼は話した。急激な社会基盤の整備は、内陸部にも及んでいる。サイゴン燃料輸送会社は、ベトナム北部のクアンニン州の沿岸部に複合的なインランドデポを建設する認可を取得したところである。

17.5ヘクタールを有するこのインランドデポは、カイルン工業地帯に1,650億ベトナムドン(1,000万ドル)の費用で建設される予定であり、2008年末頃の開港にむけて今年の第一4半期に工事が開始される予定である。

クアンニン州政府は、今年の1月だけで4社の外国企業からの投資を含め3,000万ドルを超える5つのプロジェクトを誘致した。WTO加入による貿易制限の緩和は、すでにベトナム経済を上昇気流に乗せている。

詳細情報: [www.csg.com.vn](http://www.csg.com.vn)

**ベトナムは将来的に積み替え貨物を取り扱う野望を持っており、国として貿易に善処する必要**

**がある。**

### **ベトナムの概要**

国土面積:331,041平方キロメートル(64行政区分)

人口:8,440万人

労働者人口:4400万人

主都:ハノイ(300万人)

主要都市:ホーチミン(人口600万人)、ドンナイ(200万人)、ハイフォン(180万人)、ダナン(70万人)

GDP成長率:8.2%

GDP:575億ドル

1人当たりGDP:724ドル

為替レート:16,100ベトナムドン = 1ドル(2007年2月)

物価上昇率:8.4%

輸出額:396億ドル(成長率:22.1%)

輸入額:444億ドル(成長率:20.1%)

対外投資額:102億ドル

2007年1月よりWTO加盟

(抄訳者 国土交通省 港湾局 国際・環境課 国際企画室 国際業務係長 辻村 幸弘)  
(校閲 株式会社 大本組 常務執行役員 上田 寛)